

○徳島市総合計画の各施策についての事前評価・意見

資料 1

施策01 コンパクトで機能的なまちづくり【B】

アミコの今の状況では、今後賑わいが戻るとするのは難しく感じる。全体としてバラバラとした印象の店が集まり、駐車場代もかかる。アミコから阿波おどり会館までの動線も、もっと総合的に人を呼び込むような青写真はないものだろうか。

中心市街地活性化計画を国の認定計画として、交付金が受けられるように「改善」すべきではないかと思われる。

施策02 多機能な都市空間の創出【B】

他県では3年で駅前の様相が一変するような工事が行われているのを見ると、違いは何か、改善点はないのか検証すべきではないか。

施策05 汚水対策の推進【A】

2023年度末時点で、徳島県の公共下水道普及率は約19.5%で、これは全国平均(約81%)と比較して大きく下回る水準となっているが、これに対して評価Aとしていいのか。スピード感が足りないのではないかな。

施策10 全国との多様なつながりの拡大【B】

ふるさと納税による寄付件数が伸びており期待ができる。検索したところ、特産品・食品が多いようだが、実用返礼品への人気が高くなっている昨今、実用品の出品も充実させられるだろうか。

施策18 健康づくりの推進【C】

全体的に甘めの評価に感じる項目が多いが、この項目と施策28の男女共同参画社会の実現に関しては辛めの評価となっている。双方とも数値を見ると若干下がっているようだが、他の評価づけから見るとBでも良いように感じる、評価のすり合わせはしているのか。数字合わせだけになっていないか。

施策24 「生きる力」を育む学校教育の推進【B】

『学校に行くのが楽しいと思う児童の割合』が目標値を下回っている現状は、今後の地域づくりにおいても課題である。地域への愛着を育むには、児童・生徒時代の肯定的な学校経験が重要であるとの研究もある。近年は進学競争の影響で、学業への負担が増し、学校生活が受験に偏りがちである。こうした状況を踏まえ、地域の方々と交流する機会の充実や、学習以外の多様な進路や活動の価値を示す取組を通じて、児童が学校に対して前向きな感情を持てるような環境づくりが求められる。

施策28 男女共同参画社会の実現【C】

全体的に甘めの評価に感じる項目が多いが、施策18の健康づくりの推進とこの項目に関しては辛めの評価となっている。双方とも数値を見ると若干下がっているようだが、他の評価づけから見るとBでも良いように感じる、評価のすり合わせはしているのか。数字合わせだけになっていないか。

高松・高知・松山の各男女共同参画センターの運営体制を比較すると、いずれも専門性の高い外部団体が関与しておりHPの情報発信も視覚的に工夫され、講座等の実施状況が分かりやすく提示されている。徳島市の発信状況に改善の余地があるように思われる。固定的な価値観は若年層が多様な価値観を求めて都市部へ流出する一因ともなりうる。広報や教育事業の戦略的な展開を望む。